

大城ひかるのベトナム

通信

-13-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



「貸し部屋あり」と書かれた看板。この部屋は家具付きが記されている (筆者撮影)

ベトナムで暮らして3年半になりますが、最初に引っ越してきて以来、まだ引っ越しをしたことがありません。職場まで徒歩5分と近く、隣にはスーパーがあり、大家との関係も良好なので、引っ越し理由が見つからないのです。ほかの日本人同僚も何年か同じところに住む人が多いのですが、中にはよく引っ越す人もいます。いまはもう日本へ帰ってしまった元同僚はベトナムにいた4年間、ほぼ毎年のように住む場所を変えていました。トラブルが原因というだけではなく、気分を変えたい時もあったようです。引っ越すたび不用になったものをくれるので、私の部屋はおかげさまで人並みの生活水準へと整っていききました。

日本ではアパートを借りるとき、室内に何も無いのが普通ですが、こちらでは家具付きアパートが充実しています。その最高位が「サービスアパート」と呼ばれるタイプ。家具や調理用品、家電製品などがそろっており、すぐに生活が始められて便利です。管理人が

希望の部屋探しに1か月

常駐し毎週部屋の掃除もしてくれるので、男性陣に好まれるようです。その分、家賃は高く、私の住むホーチミン郊外の相場だと800万ドン(約4万円)からといったところ。日本人には格安に感じるかもしれませんが、ベトナム人同僚の家賃相場は150万〜300万ドンだそうですから、サービスアパートはかなり高級に映ります。少し前の日本貿易振興機構(JETRO)のデータでは、2020年ホーチミン市の月間平均所得は653・7万ドンでした。もう少しお手軽な物件もあり、学校周辺に住んでいる同僚に聞くと家賃は550万〜700万ドンです。以前は台所無し

の部屋だと300万ドンで借りられましたが、今その価格帯では日本人が住めるアパートはほぼなくなりました。渡越前、「なるべくローカルに近い生活をしたい」と言う私に、ベトナムに詳しい知人が「それは厳しいよ」と笑いながら言ってくれたのですが、こちらに来て私はその意味を知ることになりました。日本人には衛生面で無理な物件がたくさんあります。

最後に私のような間借りタイプもあります。こちらは大家が1階でネイルショップを開いていて、私は店の中を突っ切って出入りします。2階には大家一家が住み、私の部屋は3階です。4階には大家の親戚が住む部屋と洗濯干し場があります。実は私はこの部屋を見つけるのに丸々1か月かかりました。同僚は長くとも1週間以内には決めているのですが、私は気に入る部屋が全然見つからなかったのです。

サポートの学生にもとうとう匙を投げられてしまい、私は自力で探さざるを得なくなりました。週末になると、学校周りの路地という路地を歩き「貸部屋」と書かれた場所の写真を撮りまくるのです。週明け、そこに電話してもらい見に行くと、果、ようやく今の家にたどり着いたというわけですが、部屋を見て「ここだ!」と即決したのですが、口の悪い同僚による「1カ月も探してここ?」というちよつと残念な物件だそうです。そんな私の部屋やベトナムの住環境を今月は紹介します。

(ご意見・ご質問をお聞かせください。oshiro@kaizen.edu.vn)